UBE Exhibition NEWS LETTER 2

2019.9.29.環境とエネルギー

講演会
ゼロ・ウェイストアカデミー 坂野 晶

ごみは主観的なもの 循環する仕組みが大切

1週間にクレジットカード1枚分のプラスチックを食べている？

日本のリサイクル率は約2割。残りの8割は燃やしていると言われています。
そして、世界中でつくられているプラスチック製品の内、約4割は包装として製造され、使われてはすぐに捨てられており、製品としての寿命はとても短いです。2050年には、海の中には魚よりもプラスチックの方が多くなると言われており、いまでも私たちは1週間に1枚分のクレジットカードを食べているというデータもあります。もちろん、人間の身体からは排出されますが、海に溶け込んだマイクロプラスチックを魚が食べ、生態系の中でそれが循環し、やがて私たちのもとへとやってくるという現状があります。

地球は資源を前借りしている

「アース・オーバーシュート・デー」という言葉をご存知でしょうか？
地球が1年間に再生産できる自然資源の量には限りがありますが、私たち人間がその限りある1年間の自然資源を消費し終えた日を「アース・オーバーシュート・デー」と言います。今年は、7月29日にその日を迎え、日本だけでみると5月には資源を使い終えています。つまり、未来にある資源を前借りするかたちで消費しており、このまま大量生産を続けていると、いずれ同じような生活はできなくなると考えられています。
このような経緯もあり、2015年、国連サミットでSDGs（持続可能な開発目標）が採択されました。国や企業単位はもちろん、私たち消費者一人ひとりが課題に向き合う必要があります。

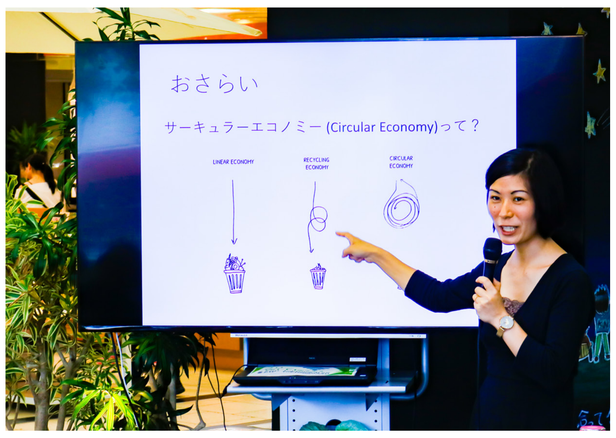
ゼロ・ウェイスト ごみの45分別に取り組む徳島県上勝町

私たちが活動する徳島県上勝町は、2003年に日本で初めて「ゼロ・ウェイスト宣言」をした地域です。ゼロ・ウェイストとは、無駄・ごみ・浪費をなくすという意味です。
では、「ごみ」とは何でしょうか？不要になったもの？その不要は誰が決めるのでしょうか？ごみは「主観的なもの」だと思っています。ごみだと思ったものでも、リサイクルする業者にとっては資源です。使う人・使い方から社会の仕組みを変えればごみはごみでなくなります。

上勝町には、ごみ収集車は走っていません。住民のみなさんが、収集拠点にある45分別のボックスにごみを持ってきて入れていきます。このボックスには、出したごみがどこにいって何になるのか、また、処理にかかるお金やリサイクルするといくらのお金になるかが書かれています。情報の透明性を確保し、分かりやすく伝え、どうなっているかを理解してもらうことが大切です。
また、まだまだ使えそうなものを地域の人が持ち帰ることができるように「くるくるショップ」という取り組みも実施しています。こうした取り組みで、上勝町のリサイクル率は81%を達成しています。

これからの経済は、サーキュラー・エコノミー

世界経済フォーラム年次総会（ダボス会議）の共同議長を務め、これからの経済は、サーキュラーエコノミー（循環型経済）に切り替えていく必要があると話してきました。
いまの経済は、資源を消費し製品を製造し、使っては捨てる一方通行の状態です（リニア・エコノミー）。リサイクルという考えももちろん良いことですが、それでも製品の寿命を少し伸ばしている状態で最終的にはごみになってしまいます。サーキュラー・エコノミーは、企業がものを売って終わりではなく、それを回収しまた循環する仕組みをつくることです。また、リサイクルの過程には、回収業者を介在しますが、それ事態をなくすなどの小さな循環のサイクルにし、消費するエネルギーを小さくしようという考えです。



ワーク
宇部市でできるサーキュラー・エコノミーを考えよう！

講演会の会場「TOKiSMA」を拠点に宇部市でできる循環型経済を考えました。バスを利用してリサイクルできるものを持ち寄ったり、パスタやコーヒーの量り売りができないかといったアイデアの他、TOKiSMAを利用する人同士での知の循環のようなものなど、様々なアイデアがうまれました。